

震度とマグニチュードの違いって何？

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

「いいね！」
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



震度	揺れのレベル
震度0	地震だけど体感できない
震度1	座っているとかすかに感じる人もいる
震度2	大半の人が気が付くレベル
震度3	動いてなければほぼほぼ気が付く
震度4	電灯などの吊り下げものが大きく揺れる
震度5弱	固定されてない家具が動く。本棚の本が落ちる
震度5強	捕まらないと歩けない。ブロック塀が崩れることも
震度6弱	立ってられない。ガラスが割れることも。
震度6強	這わないと動けない。木造建築だと倒れることも。
震度7	激揺れ。コンクリートの建物でも倒れることも。

震度階級表

マグニチュード	地震の規模	事例
-2~0.5	極微小地震	物が地面に落ちた時の振動レベル
1.0~2.5	微小地震	大きな爆発があったレベル
3.0~4.5	小地震	震源が地表付近なら体感できるレベル
5.0~6.5	中地震	はっきり揺れが分かるレベル ニュースでよく見る
7.0~7.5	大地震	かなり大きい。地表付近なら震度6か7 阪神淡路大震災レベル
8.0~8.5	巨大地震	関東大震災レベル
9.0~10	超巨大地震	東日本大震災、スマトラ島沖地震レベル
10.5~11	絶滅級	地球上の生物が絶滅の危機
11.5~12	消滅級	地球への太陽のエネルギー1日分 地球真っ二つ

マグニチュードの規模とレベル

地震が急に発生するとびっくりしますよね。テレビを見ている時に大きめの地震が発生すると、番組の途中でも地震速報が流れたりします。新聞では「マグニチュード〇〇の大地震！」というように、マグニチュードで地震の大きさを表現したりします。しかし、どれくらい揺れたのかは震度で表されています。いったい何が違うのかイマイチわかりにくいのです。いったいどれくらいの人がパッと説明出来るのでしょうか。

■震度
震度とは、地震が発生した時の、「地震の揺れの大きさ」を表した数値です。地震階級（左図参照）とも言い、十段階で設定されています。マグニチュードと比べると、マグニチュードの大きな違いは、マグニチュードはどの地域でも同じ値ですが、震度は地域によって値が異なるということです。同じ場所でも震源地が地表近くであれば、揺れは強いが、震源地が深ければ、揺れは弱い。また、震度階級表からもわ

かるように震度6弱以上の地震が発生した場合は、立つことすら困難な状況です。この事を知っているのと、知っていないでは、防災に対する意識も違ってくるでしょう。

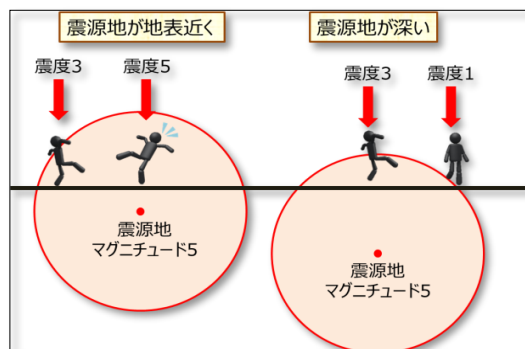
■マグニチュード
揺れの大きさを示す震度に対してマグニチュードは、地震のエネルギーの大きさを表しています。観測史上、最も大きな地震は、一九六〇年に起ったチリ地震です。この時のマグニチュードは9.5です。数字だけで見ると、東日本大震災と0.5しか変わりません。しかし、実はマグニチュードは1大きいだけで、エネルギーは32倍も違うのです。例えば、一九六〇年に発生したチリ地震は、阪神淡路大震災の64回分のエネルギーを持っていて超巨大地震だったのです。ちなみに地球上で起こりうる、最大のマグニチュードは10です。11だと、小惑星の衝突で恐竜が絶滅した時に発生した揺れくらいだと推測されます。12だと、もはや机上の空論でもしこの規模の地震が発生したら、地球は真っ二つになります。ちなみに、阪神淡路大震災のマグニチュードは7.3だったので、原爆の32倍以上のエネルギーということですよ。

緊急地震警報と地震速報

緊急地震速報と地震速報

震度3以上	地震速報
震度5弱以上	緊急地震速報

震度3以上の地震になると、テレビやラジオなどで速報やアナウンスがでます。たまたま電車の中などで、いっせいにケータイが、「ピヨッ！ピヨッ！ピヨッ！」と鳴る時がありますが、これは緊急地震警報です。



震度とマグニチュード

左図のように、同じ場所でも震源地が地表近くの場合は揺れが強いが、震源地が深い場合は、揺れは弱い。

マグニチュードはどの地域でも同じ値ですが、震度は地域によって異なります。

防災と減災の違い



『減災』と『防災』は何が違うの？

『減災』はあらかじめ被害の発生を想定した上で、災害時の被害を最小限に抑えるのが目的なんだ。



『防災』は被害そのものを出不さないようにするのが目的なのよ。



だったら、被害を出さないようにする「防災」の方が大事なんじゃないの？



そうよね～。
被害を出さないのが一番いいんだけどそれってすごくむずかしいのよね～

阪神淡路大震災の教訓で、いざ地震が発生すると、防災力を上回る被害が起きてしまい、完全に被害を防ぐという事は不可能だったわかったんだ。だから、いかに被害を抑えるかが重要なんだ。



じゃあ、「防災」と「減災」は両方やった方が効果があるってことなんだね！

日本は地震大国です。今現在だって、いつ大きな地震が発生するかわかりません。だからこそ地震への備えが必要です。日本では阪神淡路大震災以後、「減災」という取り組みが行われています。しかし、「減災」とは？防災と減災はなにが違うの？どちらか一方ではなく両方必要な理念です。地震への備えの第一歩として、私たちが知っておくべき対策で

減災とは、来たる災害時にその被害をできるだけ小さくする取り組みの事です。災害発生前、災害発生時、災害発生後のそれぞれの段階で適切な行動をとることによって、被害を小さくする事ができます。減災のためには、自分の身は自分で守るという「自助」に自分で守るという「自助」が共に助け合う「共助」が最も重要な理念になります。減災は、阪神・淡路大震災の被災者の体験から生ま

れた取り組みです。それまで災害に対して、あくまで被害を出さないようにするために「防災」という対策が主な取り組みでした。しかし、いざその災害が発生すると、この防災力を上回る被害が起きてしまふ、被害を完全に防ぐという事は不可能であると明白になりました。また、防災とは、災害が発生した後のことを重視しているのに対して、減災は災害発生前の平常時に、「い

かにして被害を減らすか」という事前対策だという違いもあります。そしてこの減災には災害発生時の行動や災害発生後の行動も含まれるため、減災という取り組みは非常に大切です。もちろん、この減災だけでなく従来の防災とを組み合わせる事でより被害を最小限に抑えることができます。

「減災」で被害を最小限に

防災新聞

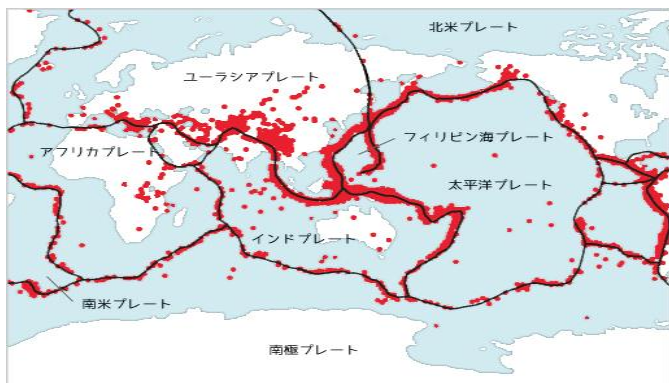
発行者
関西ボラコン株式会社
兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com
「いいね！」
お願いします
<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



なぜ日本は“地震大国”と呼ばれるのか

日本の国土は、地震・火山噴火などの災害が発生しやすく、世界全体に占める日本でのマグニチュード6以上の地震回数ユード6以上の地震回数には世界で発生した地震のうち、なんと二十・五％が日本で発生しています。活火山数は世界全体の七〇・二五％の割合は、世界の二五％の国土の面積に占めて非常に高い割合です。世界平均で見ると、日本の巨大地震発生頻度は、世界平均の二倍九十三倍です。さらに、火山密度は百倍となつています。これらの数値だけで見ても日本が地震大国と言われているの納得がいきます。日本が地震大国と言われるもう一つの要因は、日本が海洋プレートと大陸プレートの境界に位置しているからです。プレートには、様々な種類があり、プレートの境界には、切目では地震が多いことも分かっています。日本は、大きな四つのプレート（北アメリカプレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレート）の影響を受け、地震が頻発するのです。このような地理的な問題で地震が頻発するのは、日本に限らず、地震対策は必ずしておかなければいけません。

マグニチュード6以上の地震回数	20.5%
活火山数	7.1%
日本国土の割合	0.25%



<http://j-jis.com/data/plate.shtml>

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

「いいね！」
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



事前の備えが「命」を守る

関東大震災、南海トラフ巨大地震。いつ発生してもおかしくないと言われている巨大地震。発生してほしくないですが、近い将来発生する確率は非常に高いです。なので、私たちは地震が発生する前に出来る事、つまり防災・減災対策を各個人がそれぞれ考え、備える必要があります。

■家族で話し合い

家族で話し合う事はたくさんありますが、今回は①お互いの安否確認のための、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板の利用方法の確認。

②火災発生時に、家族みんなが対処できるように消火器の使用場所の確認。③災害発生後の避難場所と避難ルートの確認。これら三つの項目に焦点をあてます。

その為に、事前に家族で話し合い、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板の利用方法を確認しておきましょう。

①災害用伝言板の利用方法
地震は突然発生します。その時家族みんなが一掃にあれば、幾ばくかの心配は取り除かれるでしょう。しかし、日中に地震が発生した場合、家族みんなが同じ場所にいることはほとんどないです。そんな時、お互いの安否をい一番で確認したいと思うはずで

②消火器の利用方法
災害時は火災が発生する事がとても多いです。火災というのはと

③避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

ても危険で、災害後の被害を大きく拡大させます。しかも、災害時は消防車が通れなかったり、スミーズに移動ができないため到着が遅れてしまいます。阪神淡路大震災では、全体で七千棟近い建物が消失している。

もしあなたの家で火災が発生したら、それを最小限に抑えられるのが違ってきます。ですので、消火器を備えておく事と共に、家族みんなが消火器を使えるように使用方を確認しておきましょう。

しかし、あくまで消せる範囲の火災に限りません。火の手は早く、もはや消火器では消せないようになってくるかもしれません。その時は、一刻も早く避難し安全を確保して下さい。命が第一です。

③避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

①避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

②避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

③避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

④避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑤避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑥避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑦避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑧避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑨避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル

⑩避難場所と避難ルートの確認
自分たちの住む街・地域の避難場所や避難ルートを確認しておくことはとても重要です。いざ災害が発生した時、避難場所と避難ル



もしもの時のために、あらかじめ家族で話し合い情報の共有とルールを設定しておきましょう

主要3キャリアのサービス

ソフトバンク	災害用伝言板 災害用音声お届けサービス
Au	災害用伝言板サービス
NTTドコモ	災害用伝言板



阪神・淡路大震災「1.17の記録」

- ・上の写真は阪神・淡路大震災の時の火災の様子です。
- ・木造住宅が密集していたため、一気に火の手がまわりました。
- ・通電火災も出火の原因です。(電気が復旧した時、切れたと思っていた電気製品が再び作動。それが火元となって火災が発生する)

※危険と感じたら消火活動をせずに、すぐに避難しましょう

避難場所・避難ルートの確認

避難場所を決める	人が多く広い避難場所では、家族が合流する方法を決めておく。(細かな合流ポイントを決めておく)
避難場所へのルートの確認	火事や道がふさがれている事を想定して何通りか用意しておく
避難場所の第二候補を決める	第一候補の避難場所へ何らかの理由で行けない時のために用意しておく

むやみな行動をしない！

地震が発生し、帰宅が困難になった時はむやみな行動をしない！家族が心配になる気持ちも分かりますが、長距離を無理に帰宅しようとする、かえって二次災害を引き起こす恐れがあります。通行できる道路が限られ、駅などには、人が押し寄せパニックになっているかもしれません。まずは家族の安否を確認し、安否確認が出来たら安全な場所に留まっておきましょう。また、職場にはこういった状況を想定して、簡易食料や歩きやすい靴、地図などの帰宅グッズを準備しておきましょう。特に女性はヒールを履いている場合もあるかと思うので、歩きやすい靴を準備しておきましょう。東日本大震災時、東京都心やその周辺では、帰宅を急ぐ大勢の人が歩道からあふれ、駅に殺到した。また、家族を案じた迎いの車などで大渋滞が随所で発生し、救急活動に支障をきたしたのはいまだに記憶に新しい。



【閉鎖された道路】

<http://www.saigaichousa-db-isad.jp>

緊急警報等の重要な情報にはひときわ注意を払い正しい情報による正確な状況把握を徹底し的確な判断を心がけましょう。これらの情報が出たらそれに従い行動しましょう。ですが、もしこれらの情報

どこに避難すべきか。そもそも正しい情報を入手できているか。今自分がすべき事はなにか、地震発生後は、状況に応じた正しい判断が求められます。

■情報の入手

災害時は様々な情報が飛び交います。その中には正しい情報もあれば、ウソやデマといった間違っただ情報が多く含まれている可能性があります。噂に惑わされず正しい情報を得るためにテレビやラジオ、役場などから発信される情報を入手し、常に正しい状況を把握することに努めて下さい。特に避難命令、避難指示、避難勧告、各緊急警報等の重要な情報にはひときわ注意を払い正しい情報による正確な状況把握を徹底し的確な判断を心がけましょう。これらの情報が出たらそれに従い行動しましょう。ですが、もしこれらの情報

情報の取捨選択

情報が出ていなくても、なにか身に危険が迫っていると判断できる時はためらわず避難しましょう。また、警察や消防署に問い合わせるのはやめましょう。正しい情報を得るには警察や消防署に問い合わせるのが一番だと思ふかもしれませんが、しかし、これらの機関は救助活動中であり、一刻の猶予もない切迫した人命救助に追われています。必

適切な場所への避難

自宅が倒壊したり火災にあつてしまいでどこかに避難しなければならぬのである。地域防災拠点である小学校や中学校に避難しましょう。地域防災拠点は災害時の拠点になるので情報伝達機能や備蓄品も準備されています。避難の必要がある時は、近くの小学校や中学校に避難して下さい。



<http://www.saigaichousa-db-isad.jp>

“通電火災”の恐怖

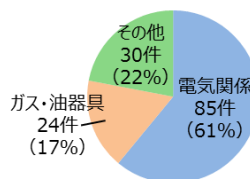
通電火災の危険性が明らかになったのは、阪神淡路大震災の時でした。原因が特定された建物火災の6割が、通電火災によるものだったのです。火元は電気ストーブや白熱スタンド、オーブントースターなどでした。国が出している首都直下型地震の被害想定の中でも対策が必要とされています。通電火災のメカニズムは、ブレーカーを落とさずに避難した場合、電力が復旧したときに、電化製品が再び始動します。これが火元となり火災が発生します。つまり、どこの家庭でも危険があります。

また、電気製品以外の思わぬところからも、火が出る可能性があります。それは、地震によ転倒や落下で傷ついた「電気コード」です。通電した瞬間、コードがショートし、近くに燃えやすいものがあると火災につながります。通電火災の対策としては、感震ブレーカーを活用することです。地震を感知すると自動的にブレーカーのスイッチが切れます。国の想定では、通電火災を含め、電気関係の出火を防ぐなど、対策を徹底すれば、火災による死者は20分の1に減らせるとして

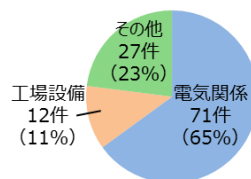
要な所に集中的に力を注ぐ事により被害を減らす事も減災です。つまり、助けなければならぬ人を助ける事が警察や消防署の減災活動です。自分の身を自分で守れる時は、まず自分の力で行動しなければなりません。今はネットの普及により、個人が得られる情報の量が飛躍的に増えています。もちろんその間に間違った情報が含まれている可能性もありますが、それらを精査し正確な情報の入手に努める必要があります。



【大規模地震時に発生した電気起因する火災】



【阪神・淡路大震災】



【東日本大震災】

※出火原因が確認されたもの
内閣府「大規模地震の電気火災の発生抑制に関する検討会資料」より

家具の配置はどうする？ あなたの家は安全ですか？

ポイントは寝室や子供部屋、出入口付近には、背の高い家具を置かないことです。建物が無事だったとしても、家具の転倒で下敷きになったり、収納物が錯乱したり、避難経路をふさがれてしまつては、元も子もありません。



家具配置のポイント

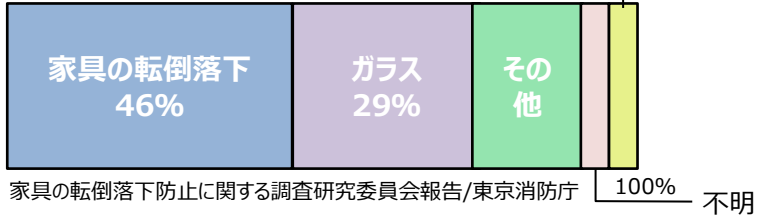
- ◎ 食器棚はリビングテーブルのそばに置かない
- ◎ ベッドのそばにタンスを置かない
- ◎ ドアの出入口付近に家具を置かない
- ◎ 窓際にモノは置かない
- ◎ 廊下や玄関に家具を置かない
- ◎ 家具は前に倒れる習性があるため、寝室に置く場合は、家具の前に寝ないこと
- ◎ 重いものや壊れやすいものを高い位置に収納しない
- ◎ すべりやすい家具の脚には、滑り止めの器具をつける

家具転倒がもたらす危険！

【激しい揺れのなかでは、家具をや家電が凶器になります】

1995年に起きた阪神・淡路大震災では、住宅内部での被害が多く負傷者の約半数(46パーセント)は「家具の転倒、落下」が原因だったというデータがあります。ガラスの飛散によって負傷した人を含めると、およそ4分の3の人が家具やガラス飛散が原因でケガをしています。

<内部被害によるケガの原因>



地震が発生した時、その時どきに居るかで対応が変わります。ひとときも地震のことを忘れずに意識し続けて過ごすのは、精神的にキツイですが、あらかじめ自宅や職場、あるいは旅行先などで地震にあったらどう行動すべきかを考えておくのも減災です。

■家の中で地震にあったら
屋内と言っても、リビング、トイレ、キッチンなど様々です。日頃から、どう対処するかを考えてお

く必要があります。家の中で大きな地震に襲われた場合、テーブルや机などの下にもぐり、テーブルなどの脚をしっかりと握りましょう。次に座布団などで頭部を守り、揺れが収まるのを待って下さい。この時、慌てて外に出ないように注意して下さい。巨大な落下物などにより、危険度が増す場合があります。揺れが収まってから窓やドアを開けて脱出経路を確保して下さい。しかし、これはあくまで

家が倒壊しないであろうと判断される場合においては、通常のテーブルであれば、テーブルの下にもぐつてもテーブルごと押し潰されてしまいます。状況次第で、脱出経路の確保が第一になることもあります。柔らかい対応でも、脱出経路の確保が第一になることもあります。ように入浴中に大きな地震に襲われたら、まずドアを開け脱出経路を確保して下さい。そして揺れが収まるまで浴室で待機して下さい。

油断禁物！危険が潜む屋内

狭い空間であるがゆえに家の中では比較的落ちたりするので注意して下さい。料理中の場合は、無理に火を消そうとせずに、揺れが収まるまでテーブルの下にもぐって身を守って下さい。揺れにより料理器具が落下して火傷を負ってしまう危険があります。火は揺れが収まってから落ち着いて消すようにして下さい。

寝ている時に大きな揺れで目が覚めたら、ベッドの下に隠れて身の安全を確保しましょう。倒れた照明器具の破片で怪我をしやすいので注意して下さい。また、枕元に軍手や懐中電灯、厚手の靴下やスリッパ、ラジオなどを置いておきましょう。家具転倒の被害を防ぐために、寝室にはあまり背の高い家具は置かないようにしましょう。

防災新聞

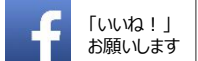
発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ
bousai-ansin.com



https://www.facebook.com/ansin.bousai/



建物の1フロアだけが潰れる、パンケーキクラッシュ

阪神淡路大震災では1階や4階、5階だけなど特定のフロアだけ潰れる被害が相次ぎました。こうしたビルの倒壊をパンケーキクラッシュと呼び、直下型地震の特徴とも言われています。

パンケーキクラッシュは軟弱な地盤特性と建築基準の甘さが原因とされています。デザイン性を重視しすぎた建物や駐車場やピロティーなど壁がない場所、鉄骨のつなぎ目で発生し、柱が上の階を支えることができなくなり、そのフロアを潰すように倒壊します。1981年に建築基準法が大幅に改正されましたが、それより以前の築35年以上のビルは首都直下型地震で倒壊する可能性があります。



阪神・淡路大震災「1.17の記録」

津波の脅威！！ 甘かった認識



写真提供：仙台市

写真提供：仙台市

上の写真は東日本大震災の写真です。あのとてつもなく大きな津波は第一波ではありません。地震発生後数分で発生した津波は微弱なものでした。巨大地震が発生したら四の五の言わずに、とにかく逃げて下さい！

過去にも津波の被害はあったはずですが、年月とともにその教訓は風化していった。震災後も防災に対する意識は一時的に上がったが、震災直後よりも徐々に下がっている傾向にある。現在では、関東直下型地震が騒がれている為、防災意識は高まっているが、一時的なものではなく、維持しつつ、さらに高めていかなければいけない。過去の経験を伝えることにより生まれる減災もあります。

もしもエレベーターの中に閉じ込められたら！？

まず大前提として、エレベーターの中で巨大地震に襲われたら**すぐにすべての階のボタンを押して**下さい。そして、停止した階で外に出て下さい。

エレベーターの中に閉じ込められてしまった時の対処法

- ・非常ボタンやインターホンなどで外部と連絡をとり、救助を待つ
- ・災害用伝言板に自分の居る場所と置かれている状況を具体的に書き込み救助を待つ
- ・災害用伝言ダイヤルで、知り合いに今の状況を伝え、そこから救助を要請する
- ・TwitterやFacebook等のSNSを活用し、自分の状況を伝える
災害時は電話は繋がりにくく、むしろ繋がりませんが、ネットには繋がるので、ネットを使い救助要請をしましょう

求められるのは『臨機応変』な行動！

一番重要なのは臨機応変な行動です。今回の防災新聞では、一般的に考えられる様々なケースを想定していますが、これが絶対的な正解ではないかもしれません。その場、その時の状況により、自らの頭で考え行動することが重要です。自分では明らかに逃げた方が良くも思っている、周りの人達が避難しようとしなかったらなかなか行動しづらいものです。しかし、周りに合わせてもし命を失う事になれば、意味がありません。あの時、逃げていればよかった・・・と後悔することもできないのです。

周囲に惑わされない判断

外にいる時に大きな地震に襲われたら落下物や倒壊物に気をつけて下さい。ビルなどのガラスが割れ、落下してきます。他にも、看板や崩れた外壁なども落下してきますので、絶対に頭部を守る事を忘れないで下さい。また、地割れや陥没等も起きる可能性がありますので、そういった場所には近づかないようにして下さい。

■急ブレーキは禁物！
車の運転中に大きな地震に襲わ

れても急ブレーキを踏まないようにして下さい。急ブレーキを踏んだことにより予想外の事故を引き起こす事につながってしまいます。まず、落ち着いてハンドルをしっかり握り、前後の車に注意しながら徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車しましょう。その後、エンジンを切り、揺れが収まるまで車内で待機し、カーラジオなどから情報を入力しましょう。※コントロールを失った車が出っ

て来るとも思えないので車の外には出ないで下さい。避難の必要がある場合は、車のキーを付けたまま、ドアをロックしないで窓を閉める。自分への連絡先を見るところに書き残し、車検証などの貴重品を持って徒歩で避難しましょう。車での避難は、救急車や消防車といった緊急車両の救助活動を妨げてしまう恐れがあるので止めておきましょう。

■津波の脅威
海岸で一番恐ろしいのは津波です。津波警報や避難の指示、勧告がなくてもすぐに高台や避難場所へ逃げて下さい。とにかく内陸の、より高い所を目指して下さい。また、いったん波が引いても

絶対に戻らないで下さい。東日本大震災では、地震発生後数分で微弱な津波が第一波として観測されています。つまりあのとてつもない津波は第一波ではないのです。地域差がありますが、地震発生約15分〜30分後におおきな津波が来ましたが、地震発生後に海岸付近の高い建物に逃げても、津波の威力の前には恐ろしく無力です。例え何十階建ての建物に逃げても津波の圧倒的な力によって根こそぎ倒されます。

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

f 「いいね！」
お願いします

https://www.facebook.com/ansin.bousai/

